

◆ 平成30年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 かわごえ里山イニシアチブ

21A-22

代表者：代表理事 増田純一

URL : <http://kawagoesatoyama.ciao.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

活動基盤として、ラムサール・ネットワーク日本が国連の生物多様性締約国会議（COP10）の達成年度である2020年を目標として取り組んでいる「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」の行動計画を基本に活動しています。

活動の背景としては、農薬は労働力を削減し、効率的なお米作りに劇的な効果をもたらしたという反面、特にネオニコチノイド系や浸透性の農薬は、生きものの生態系や脳の発達途上にある子供たちへの脳神経に影響を及ぼし、発達障害、学習障害、自閉症、注意欠陥多動性障害などを引き起こしています。

また、田んぼからの水は河川に流れ、やがては飲み水となり自分たちの体に循環してきます。このため河川を汚さない農薬や化学肥料を使わない米作りで田んぼをフィールドにした地域づくりや田園風景を保全し、自然豊かな環境を目指して活動しています。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



堀さらい



田植え

4月7日村人総出で行う堀さらい（総勢40名、里山から10名参加）を皮切りに田んぼをフィールドにした「生きもの育む田んぼプロジェクト」を開始しました。4月28日種まき（30名）を行い、この日から育苗が始まりました。5月26日で田植えを行い約40名が参加。朝日新聞の取材もありました。6月30日菅野芳秀氏「いのちを語るなら、土から語ろう」講演会（70名）を開催。7月7日に生きもの調査（植物編：35名）、生きもの調査（動物編）は台風のために中止し代わりに10月13日の収穫祭（35名）に生きものトーク&ライブ（15名）を開催しました。今年はマコモが脚光を浴び、横浜や都内からの農業体験の来訪者が多くありました。稲作文化の伝承としてマ



コモでお盆飾りや正月飾り作りを行いました（延べ50名）。

3. 活動の成果

環境にやさしい田んぼ活動は、徐々に会員や農業体験、援農者が増加し地域の理解も深まり、特に今年度はメディアの取材も多くなり普及・啓発に大きく寄与しました。

また、農業体験やイベントを通じて環境にやさしい田んぼが憩いの場所、癒しの場所としてお米作りだけではない田んぼの価値を理解してもらうことが出来ました。

特に人と生きものが共生する地域づくりの形が見えてきた1年でもありました。これらの活動が評価され、2月15日に彩の国埼玉環境大賞の「大賞」を受賞しました。

4. 今後に残された課題

活動の活発化にともない村の人との交流の拠点、農作業の拠点、農業体験者の休みどころとして人が集え憩える場所づくりが必要になってきました。

また、NPO法人にもなり事務処理能力の強化が必要になってきました。まだまだ、6次産業化にほど遠い状況なので引き続き追及していきたい。